

多度津未来FIVEプロジェクト

古き良き歴史の町、多度津

2022年4月

島

I 東浜プロジェクト

V 家中プロジェクト

歴史ある町家

移住・農泊

II 西浜プロジェクト

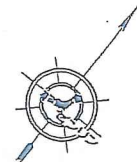
海

IV 本通りプロジェクト

III 白方・見立プロジェクト

山

津島



津島

三
野
郡

1:17,000

善通寺市

「この地図は国土地理院の地図を使用して作成したもの」

多度津未来 FIVEプロジェクト

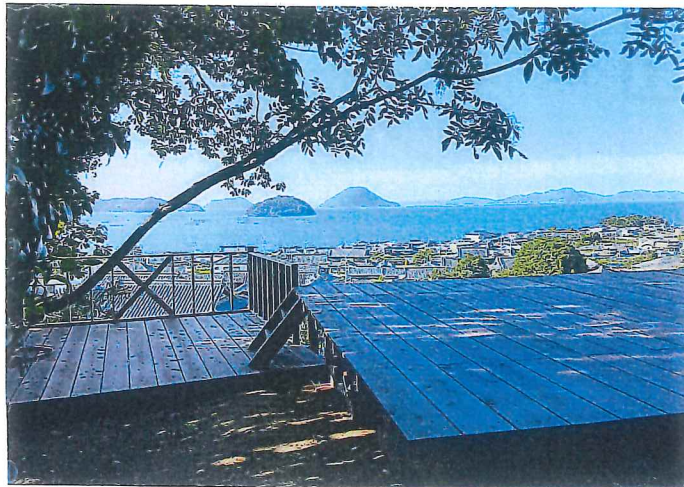
Ⅲ 奥白方・見立プロジェクト 2022 年 4 月設立

古く良き歴史の町、多度津見立編 ＜別紙参照＞

代表生田真理子



見立、里山テラス 2022、10/15 完成



見立、里山テラス展望台

「ウッドデッキ」



見立の山、果樹園の持続化へ・・・・・・・・・・

多度津ワイナリーの可能性に向けて！！

果樹園の課題

- ① 多度津白方ぶどう「デラウェア」百年続くぶどうの持続不能の危機
びわ・オリーブも同様・・・次世代に技術指導
- ② 後継者不足により耕作放棄の土地が増加・・・土地の整備
- ③ 果樹園の人材集め、移住定住のマッチングの窓口立ち上げ受け入れ準備
- ④ 空き家利用の準備（物件により改修も必要）

見立の自治会長 秋山会長の畑

オリーブ畑 & ワイン用のぶどう畑
シャインマスカットその他、多種類



多度津白方ぶどう



びわ



多度津オリーブ「蒼のダイヤ」

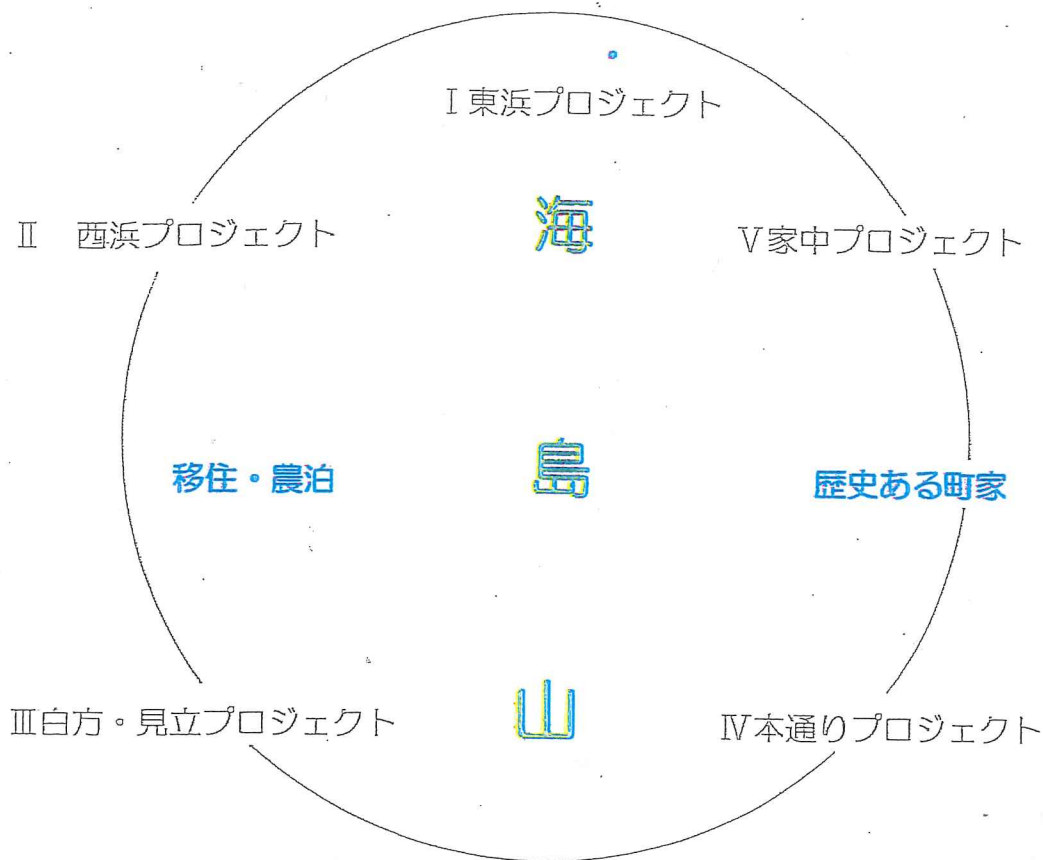


オリーブの木

多度津未来FIVEプロジェクト

古き良き歴史の町、多度津

2022年4月



1. 目的

- ・歴史ある多度津の文化と歴史を残し、共存するまちづくり実践につなげる提案
- ・建物や歴史などの、地域文化の宝を住民と共に、まちづくりへの理解と意識を高め、子供達が住み続けたいくなる、まちづくりの提案
- ・観光・農業・商業と人が行き来し留まり賑わうまちづくりの提案

2 目指すこと

- ・**歴史ある建物の保存** ・ ・ 伝統的建造物の保存と町家の活性化
- ・**農業の充実** ・ ・ ・ 伝統ある**白方ぶどうの継承**と耕作放棄の土地の利活用
ぶどう・びわ・いちじく・アスパラ・いちご・キュウイなど・ ・
多度津独自のワイン・100年ぶどうのデラウェアで生ワイン
- ・**空き家対策** ・ ・ ・ 移住・定住の充実化 （空き家の窓口設立しマッチング）
地方に移住したい方が増えてきている、今が最後のチャンス
- ・**観光と宿** ・ ・ ・ JR 多度津駅 ➡ 町中・歴史建物探索 ➡ 山 ➡ 島までつなげる
➡ **多度津で宿泊**。 ➡ **多度津街道をゆき金比羅参りへ**
➡ **鉄道発祥の地多度津**から予讃線・土讃線へと**四国を繋ぐ**

I 東浜プロジェクト

長屋プロジェクト (SANAGA)

- ・長屋を新店舗への誘致、新しい多度津の食材と自然素材を扱う店舗ができる場所。若者のこだわり店舗創りの場
- ・近隣の広場を取り込み港の集まりの場に活用、
- ・東隣の武田三郎宅（版画家）乃木将軍が住まわれていた家の利活用
- ・北前船寄港地〜たどつ街道から金比羅へと繋ぐ
- ・高見島・佐柳島へと繋ぐ島歩き・祭りを継承
- ・港でのお魚マルシェ・イベント及び瀬戸へ芸に繋ぐ
- ・合田マリンさんとのコラボ・島への繋がり、こだわりの島めぐり

II 西浜プロジェクト

- ・ギャラリーカフェ 良、ここの**スイーツ新商品販路拡大**
- ・古民家ステイ **香露軒のネーミングでのスイーツブランディング計画と販路拡大**
- ・香露軒独自のトラベルナビゲート**旅色プラン計画**
- ・**西浜プロジェクト、上記担当者の雇用と事務所確保**

III 白方・見立プロジェクト

- ・多度津白方ぶどう「デラウエア」100年続くぶどうの持続不能の危機、後継者不足により耕作放棄の土地が増えています。
私共はデラウエアを使っのスイーツ新商品を開発をする中、ぶどう農家さんに会いに行ったところ現状を知りました。デラウエアの持続可能の為に作りての人材集め、移住定住のマッチングの窓口を先ず立ち上げ、受け入れの準備、1年通しての農家での生活確保は必須です。
- ① 多度津白方・見立は ぶどう以外に びわ、オリーブアスパラ、いちごなどがありてつだいも可能
- ② 空き家利用の準備（物件により改修も必要）
 - ① ②の準備のために先ず、見立のびわ農家さんの草刈りからの準備に取り掛かります。

Ⅳ 本通りプロジェクト

- ・瀬戸内海に開けた多度津町は古くから交通の要衝地であり港を中心に発展してきました。**江戸時代に多度津藩**が巨額の費用を投じ新たな港として**多度津の港を築くと多度津は金比羅参詣の海の玄関口として、又、北前船の寄港地として大いに発展し** 明治に入ると、この繁栄を礎として後に「**多度津七福神**」と称される豪商たちが、**鉄道、電力、銀行**といった近代産業へと発展

多度津本通りの町並みはこうした豪商たちの建物が建ち並び通りとなり繁栄してきました。しかし昨今、空き家が増え解体されつつあるなか、伝統的建造物の保存と利活用に力をいれようと動き出しておりますが、もっと地域に住まわれてる方々に多度津の伝統的町並みの文化財的価値を明らかにするとともにその魅力を再発見し、安心安全に住み続けられるようなまちづくりを目的としたプロジェクトが必要。目指すこと

本通りの「出店、合田邸」をプロジェクトの拠点とした場所作りと考えております。地域の皆様に文化財的価値と町並みを残していく意味持ち主の高齢化に伴い修繕費用もいつまでも可能ではありません、持続可能な方向性として、店の店頭、あるいは、住居だと通り面を一部店舗部分としてお貸しすると、少しでも家賃収入となる。

本通りに明かりがとまり、そして人が行き来し留まり賑わうまちづくりに発展につなげます。 **住む側も楽しくなくては意味がありません。**

伝統的建物群保存地区の制度すなわち「**住建制度**」の活用や、その他諸制度を取り入れながらの本通り未来プロジェクト計画です。

Ⅴ 家中プロジェクト

- ・江戸末期の陣屋があった家中
大手東門に位置した富井邸が唯一残されています。守るべき建物
- ・陣屋の跡地に、明治に入ると鉄道の多度津駅があり港へと繋がってありました。現在は多度津工場となります。「鉄道は多度津発祥の地」
- ・残り少なくなる家中の古民家再生と利活用が必須と考えております。